



映画監督。松山市出身。京都帝国大学（現京都大学）卒業後映画界に入り、伊藤大輔監督に師事した。日活、第一映画社を経て新興キネマ「仇討膝栗毛」で監督としてデビューする。兵役のあと大映に復帰。母ものの「山猫令嬢」、社会劇「わたしは情婦」、喜劇「極楽夫婦」、時代劇「銭形平次」「決闘鍵屋の辻」とあらゆるジャンルを手がけ、戦後の映画黄金期を支えた。長谷川一夫や市川雷蔵らと組んで、映画の娯楽性と芸術性の統合をめざし、百本以上の作品を監督した。

略歴

- 明治44(1911)年1月15日 松山市に生まれる。
- 大正5(1916)年 父母の離婚に伴い、福岡県八幡市に移る。
- 大正11(1922)年 八幡市の中学に入学、中学三年の時に母の里である今治の中学に転校。
- 大正14(1925)年 「雄呂血」を見て映画に病みつきになる。
- 昭和2(1927)年 松山高等学校(現愛媛大学)に入学。
- 昭和8(1933)年 京都帝国大学を卒業し、日活太秦撮影所の脚本研究生となる。
- 昭和9(1934)年 記録としてついた伊藤大輔監督の「忠臣蔵」封切り。
- 昭和11(1936)年 新興キネマに移る。監督としてデビューとなる新興キネマ作品「仇討膝栗毛」封切り。
- 昭和17(1942)年 監督作品「三代の盃」完成直後、出征。
- 昭和21(1946)年 復員。監督作品「手袋を脱がす男」封切り。
- 昭和22(1947)年 監督作品「婦人警官」封切り。
- 昭和23(1948)年 監督作品「山猫令嬢」封切り。演出をしたエノケンプロ作品「極楽夫婦」封切り。
- 昭和26(1951)年 長谷川一夫主演の監督作品「銭形平次」封切り。以来シリーズ化する。
- 昭和27(1952)年 東宝に招かれ、黒澤明脚本の監督作品「決闘鍵屋の辻」封切り。
- 昭和42(1967)年 市川雷蔵主演の監督作品「ある殺し屋」封切り。
- 平成元(1989)年6月29日 78歳で永眠。

<関連図書>

- 森一生『森一生映画旅』 草思社 1989年
- 『森一生文庫目録』 京都府京都文化博物館 1991年
- 鴫明弘&京都キネマ探偵団『京都映画図絵』 フィルムアート社 1994年

(写真:愛媛県生涯学習センター蔵)

愛媛県生涯学習センター:TEL 089-963-2111(内線212)
掲載情報の無断転載を禁じます。